

第5章 日本語教育のための「基本オノマトペ」の選定

第4章で、オノマトペの教育に向けて様々な観点から考察をし、オノマトペ教育の考え方とその方策について述べてきたが、第5章では、その方策の第一歩として、日本語学習の比較的早い段階、すなわち初級修了程度から中級におけるオノマトペ教育のための「基本オノマトペ」を選定することを試みる。

始めに5.1節で、「基本語彙」とは何か、日本語教育においてどのような語を基本語彙と考えるのかという点について、先行研究をふまえて改めて考える。また、基本語を選定する際の基盤とするべく、日本語教育における基本語彙の先行研究として8種の文献を紹介する。次に5.2節で、5.1節の基本語彙の文献に選定されているオノマトペにどのようなものがあるかを調査し、報告する。そして、5.3節で、本論文における「基本オノマトペ」の考え方と、その選定方法ならびに選定に向けたプロセスを述べ、日本語教育のための「基本オノマトペ」を一覧にして示す。

5. 1 基本語彙の先行研究

5. 1節では、まず5. 1. 1項で、「基本語彙」あるいは「基礎語彙」とはどのようなものであるかということ、いくつかの先行研究を通して考え、そこから本論文における「基本語彙」の考え方について述べる。次に、5. 1. 2項で、「基本オノマトペ」を選定する際の基礎資料とするために、日本語教育における基本語彙の先行研究から8つの文献を選び、その概要を紹介する。

5. 1. 1 「基本語彙」とは

外国語教育の初期の段階においては、基本的な文型の提示と共に、基本的な語彙としてかなり限定された数の基本語が新出語として提示される。例えば、「日本語能力試験出題基準」には4級語彙として800語、3級語彙として1,500語という基準が示されていて、多くの初級教科書は、この出題基準や他の基本語彙に関する文献¹をもとに、提示するべき語を選定していると思われる。では、ここでいう「基本語彙」とは、どのような性格を持った語群であるのだろうか。また、どのような語群であるべきなのだろうか。

「基本語彙」としばしば対照されるものに、「基礎語彙」というものがある。ここで、この二つの概念について、まず『日本語事典』（野村・小池編、1992、pp. 48-51）による解説を見てみる。

「基本語彙」：

語彙は、その中心に行くほどより基本的な語が存在し、逆に周縁部に行けば行くほど新語や流行語などに代表される不安定な語が存在するという、立体的な構造をなしていると考えられる。この、ある一つの語彙にあって、その中心的な部分にあるひとまとまりの語の集合を基本語彙という。

「基礎語彙」：

主として言語教育上の目的から、日常の言語生活をいとなむためには最低限これだけあればよい、として選ばれた語の集合を、基礎語彙という。現実の言語資料を計量的に

¹ これらの文献については、5. 1. 2項で詳しく紹介する。

調査することによって客観的・帰納的に得られるとされる基本語彙とは異なって、個人が、学問的な分析に基づきながらも、主観的・演繹的に選定するという点に特徴がある。

「基礎語彙」という考え方は、1930年に、C.K.Ogudenが中心となって、日常普通の事柄をすべて表現するために、850語からなる“Basic English”を選定したというところから始まる。850語の内訳は、名詞、形容詞などが中心で、動詞を用いない点に特徴があるが、実際には、基本的な動詞18語と24の前置詞とを組み合わせると多くの動詞表現を作ることができることなどから、実際に使われる語は850語よりかなり多くなると考えられる。

日本語でもこれにならば、土居光知が『基礎日本語』（1933）として1,000語を発表している。²しかし、その中には「帯」「羽織」等、現在使用されている語とのずれもあり、あくまで選者の主観に基づいて選定された語彙となっている。つまり、「基礎語彙」は主観的・演繹的に選定されるため、その全体の語数や語の選定基準の妥当性、語の選定にバランスがとれているかなどが問題となる。一方、「基本語彙」は、対象とする言語資料の範囲を定めた上で、そこにどのような語がどのように現れているかという語彙調査によって求められる。すなわち、「基本語彙」には、統計的な裏づけがある一方、「基礎語彙」には、必ずしも統計的な裏づけがあるとは限らないことになる。しかし、「基本語彙」においても、どの分野の言語資料を基とするか、またどこまでを基本語彙とするかという問題も残ると言える。

田中(1986, pp. 45-46)によれば、水谷静夫³は、基本語彙というものが、備えるべき条件としてつぎのような、5項目をあげている。

- (1) その語の使用を禁ずるとしたら、他の語では代用できず、したがって文章をつづることができないか、他の語で代用しにくく、していいかえるとその語を使うよりかえって不便になるかである。
- (2) それらの語を組み合わせると、他の複雑な概念や新しく命名が必要になってきた概念などをさす語が作りやすい。また現に、そうしてできた語がたくさんある。
- (3) 基本語彙に属しないような語の説明をするとき、結局は基本語彙の範囲の語でまかなうことが、たいがいはできる。

² 1943年に1,100語に増補している。

³ 原典は、水谷(1958)「基本語彙と語彙調査」『国語教育のための国語講座 第4巻 語彙の理論と教育』朝倉書店。

(4) そういう語の多くは、昔から使われてきたし、また将来も使われるであろう。

(5) 各方面の話題を通じてよく使われる。

また、林（1984, p. 33）は、特に日本語教育に関連する「基本語彙」の考え方について次のように述べている。

「基本語彙がまず考えられるのは、教育のための基本語彙である。これは、国語教育のための基本語彙と、外国人に教えるための、日本語基本語彙と、大きく二つに分かれる。

この二つは、だいぶ性格のちがうものだ。わかりいいのは外国人に教えるものの方で、これは、学習者の力の経済とか、教える時間の節約とかいうことを考え、できるだけ少ない語数で、なるべく多くの表現ができるようにと選ばれた効率の高い語彙でなければならない。千語ぐらいから考えられ始めて、せいぜい数千語にとどまるであろう。一万をこえらなったら、もう、ずいぶんぜいたくな語彙で、基本語彙ともいえなくなるだろう。

外国人のための教育基本語彙の特徴は、実際にそれだけで表現活動がまかなえるものでなければならないことである。限界がはっきりしているのだ。」

さて、本論文においても、日本語教育のための「基本オノマトペ」、すなわち初級後半から中級段階で学習されるべき「基本語彙」としてのオノマトペを選定するわけだが、水谷が上記の(1)で挙げている「ほかの語で代用できない」という点、あるいは林の言っている「それだけで表現活動がまなかえる」という点に特に注目したい。オノマトペで言えば、話者の心情や感覚を表す「わくわくする」「(お腹が) ごろごろする」などや、事物の状態を表す「あっさりした(味)」「ばらばらだ」などがこれに該当するのではないかと考える。また、筆者が長年日本語教育の現場で教えてきた経験を生かすためにも、玉村（2003）における「<基本語>に<基礎語>の考え方を交えたもの」という考え方も援用したい。「基本オノマトペ」の具体的な選定方法と選定基準については、5. 3節で述べることとする。

5. 1. 2 日本語教育における基本語彙の先行研究

ここで、日本語教育における基本語彙に関する先行研究として、以下の8つの文献における基本語彙の選定基準と選定方法、選定された語数等を概観する。

- (1) 国立国語研究所 (1984) 『国立国語研究所報告 78 日本語教育のための基本語彙調査』 秀英出版
- (2) 文化庁文化語部国語課 (1983) 『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集』 京和工業
- (3) 玉村文郎 (1987) 「日本語教育基本 2,570 語」(『日本語教師養成通信講座 日本語の語彙・意味 (1) (2)』アルク
- (4) 国際交流基金・日本国際教育協会編 (2002) 『日本語能力試験 出題基準【改訂版】』 凡人社
- (5) 玉村文郎 (2003) 「中級用語彙—基本 4000 語—」『日本語教育』116 号
- (6) 文化庁 (1990) 『外国人のための基本語用例辞典』 大蔵省印刷局
- (7) 専門教育出版『日本語学力テスト運営委員会』編 (1998) 『改訂 品詞別・A～D レベル別 1 万語語彙分類集』 専門教育出版
- (8) 工藤真由美 (1999) 『児童生徒に対する日本語教育のための 基本語彙調査』 ひつじ書房

5. 1. 2. 1 『日本語教育のための基本語彙調査』について

この調査の目的は、「I 解説」によると「留学生等外国人の日本語学習者が、専門領域の研究または職業訓練に入る基礎としてはじめに学習すべき日本語の一般的・基本的な語彙について妥当な標準を得る」ことである。そして基本語選定の方法としては、日本語のシソーラスである『分類語彙表』(国語研, 1964) のそれぞれの単語に対する専門家の「基本度意識」をもととした「専門家判定方式」を採用した。

具体的な選定作業としては、日本語教育・国語学・言語教育等の専門家 22 人に『分類語彙表』所載の約 36,000 項目について以下のような 3 段階の判定を求めた。

第一判定：上述の一般的・基本的な語彙として「六千語」を目安に選定する。

第二判定：第一判定で選定されたもののうち最も基本的で、はじめに学習しておくべきと考えられる「二千語」を目安に選定する。

0 判定：第一判定、第二判定のいずれにも判定されないものとする。

上記 3 段階それぞれの判定に得点を与え、その結果を集計し、得点によって削除や補充などの修正を行った。そして最終的に「六千語」として 6,060 語、「二千語」として 2,030

語が決定された。

5. 1. 2. 2 『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集』について

この報告書は、大学（教養課程）で勉強しようとする外国人留学生が教養課程で必要となる能力を二つの水準に分けて、それぞれの言語要素別に標準表として示している。第一水準は、「基礎的な能力である」とし、第二水準は、「それに加えて獲得しておくことが望ましい能力である」としている。

語彙については、「国立国語研究所の日本語教育のための基本語彙 6,000 語（第一次集計）から選定した約 3,600 語を第一水準とする。これより重要度の劣るその他の約 1,500 語を第二水準とする。なお、このほかに、高校の教科書などから選定した 181 の専門用語を選定したがこれらは水準以外のものである。」となっている。そして、標準設定の手順として、上述の「基本語彙表」は「日本語を学習する外国人一般を広く対象とした基本語彙集であって、大学生活を営む留学生に必要な大学生用基本語彙とは相違する面があって当然である。」とし、大学生にとっては学習生活・研究生活が何より優先するという理由のもとに、「基本語彙表第一次集計資料」に記載されている 7,500 語から、大学生活に直接かわりがないと思われる語群及び大学生なら他の日本語能力によって十分カバーできるとと思われる語を除き、代わりに一般人にはさほど必要でないが大学生にとってはごく日常的かと思われる語を補充した」とのことである。最終的に「語彙標準表」に採録された総語彙数は 5,167 語で、うち第一水準が 3,621 語。第二水準が 1,546 語である。

5. 1. 2. 3 「日本語教育基本 2,570 語」について

玉村文郎が、2,000 語を目安として、『現代雑誌 90 種の用語用字』や上述の資料（1）『日本語教育基本語彙（1）—上位二千語—』などを原資料に用い、基礎語的な見方でそれらの資料の一語一語を洗い直した上で選定したもの。日本の大学への留学生を対象としているため、①都会の日常生活で必要とする語群、②大学の授業で必要とする語群（認識・思考・論理関係の語彙、文房具類など）、③衣食住関係の語群は、欠けるところなくすべて備えている。また、①助詞・助動詞、接辞を含んでいること、②動詞の同音語は、1 語にくくられていることから、これら 2,570 語は何倍かに増加しうる。⁴

玉村自身は、この基本語選定について、「この基本 2,570 語は、筆者がこれまでに携わっ

⁴ 国立国語研究所（2000）『日本語基本語彙—文献解題と研究—』の解説による。

てきた辞書作成や語定作業の経験をもとにして選定したものです。反義語や関連語を考慮しながら、日本語教育の基本的な語に限るという観点で選びました。」と説明している。

5. 1. 2. 4 『日本語能力試験 出題基準【改訂版】』について

昭和 59 (1984) 年度に初めて実施された日本語能力試験の試験問題作成者の便宜を図るために作成されたもの。語彙に関する 3・4 級の「出題基準」(シラバス) は、現在国の内外で使用されている初級日本語教科書の中から使用機関数が多い順に 11 種の教科書を選定、それを基礎資料とし日本語教育に関する語彙調査を参考資料として作成されている。

1・2 級語彙の「出題基準」は中・上級教科書の調査という方法ではなく、一般社会、日本語教育、学校教育(中学・高校)における語彙の使用を調査したこれまでの語彙調査の資料を基に、これに日本語教育の立場からの修正を加えることによって作成されている。また 1・2 級語彙の選定基準の中に、「出題されることはあるが、その範囲・適否を定めることが困難な語」として擬態語・擬声語は原則して採用しないこととするとされている。各級の出題基準としてあげられた語数は以下の通りである。

- < 4 級 > リストに挙げた 679 語を含む 800 語
- < 3 級 > リストに挙げた 1,315 語を含む 1,500 語
- < 2 級 > リストに挙げた 4,833 語を含む 6,000 語
- < 1 級 > リストに挙げた 7,800 語を含む 10,000 語

5. 1. 2. 5 「中級用語彙－基本 4000 語－」について

「初級段階を終えた日本語学習者や日本在住者が、次の段階で獲得して最も広範に活用できる語」として、玉村がこれまでに発表してきた語彙表⁵を踏まえて選定した、日本語教育における中級用の必修語彙 4,000 語である。玉村は、「語彙の教育や習得は言うまでもなく言語の教育と学習の重要な柱の一つである。しかし、母語の場合にも非母語の場合にも、理由は異なるにしても、意識的・系統的には行われてこなかったきらいがある」としたうえで、従来の「日本語能力試験」の 3 級 (1,500 語) と 2 級 (6,000 語) のとの中間段階に位置するものとして 4,000 語を選定している。この 4,000 語は、「多方面で使われ、とくに

⁵ 玉村文郎 (1970) 『実用和英辞典』(海外技術者研修協会), 玉村文郎 (1987) 「日本語教育基本 2,570 語」(アルク日本語教師養成通信講座『日本語の語彙・意味 (2)』)

学習・研修の分野で必要と考えられるものを中心にして選んだ」ものであり、〈基本語〉に〈基礎語〉の考え方を交えているとしている。

5. 1. 2. 6 『外国人のための基本語用例辞典』について

『外国人のための基本語用例辞典』は、「日本語の中で特に基本的であると思われる語を中心として解説し、適切な用例を付して、外国人の日本語学習の効果を高めるのに役立つこと」をねらって編集されたもの。対象とする学習者は、日本語を500時間内外学習した外国人学習者、およびそれ以上の日本語の学力のある学習者とされている。

基本語として採録された語は、日本語の学習書や諸種の語彙調査などに見られるものを資料とし、その中から日本語学習の初級の段階において出あうことが多く、かつ必要度が高いと考えられるもの約4,500語が選定されている。この辞典の巻末の付録の一つに、「擬声語・擬態語について」があり、「擬声語・擬態語の数はひじょうに多いので、ここに全部をのせることはできない。ここでは、特に形がよくにいて、意味や使い方のちがうものをおもに集めた」として、192語が提示されている。但しこの192語のうち、「どうどう」「のびのび」「まるまる」は、本論文ではオノマトペと認定しない語である。

5. 1. 2. 7 『品詞別・レベル別 1万語語彙分類集』について

専門教育出版が実施している『日本語学力テスト』におけるレベル設定基準に基づいて選定された語彙分類表。平成3年(1991年)に刊行された旧版に一部修正が加えられている。あくまでも日本語教育の現場で必要とされる基本語彙を、特に出題という観点から選定しているため、使用頻度、あるいは日本人にとっての教育基本語彙という観点からは異なった結果が見られるとしている。また、一般に副詞に分類されているものが多い「擬声・擬態語」についても、日本語教育という立場から一つの分類項目を設けているのが特徴的である。

各レベルの具体的な設定と選定語彙数は以下の通り。なお、『日本語学力テスト』は、日本語能力試験出題基準と比較すると、若干高めに設定されている。

レベルD : 635語。

日本語を勉強し始めてから、1か月以上3か月未満(学習時間100~300時間)の人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、日本語能力試験4級を目指す学習者

を想定。

レベルC：1,274語。(累計1,909語)

日本語を勉強し始めてから、3か月以上6か月未満(学習時間400～500時間)の人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、日本語能力試験3級を目指す学習者を想定。

レベルB：5,501語。(累計6,310語)

日本語を勉強し始めてから、6か月以上1年未満(学習時間700～800時間)の人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、日本語能力試験2級を目指す学習者を想定。

レベルA：3,862語。(累計10,172語)

日本語を勉強し始めてほぼ1年(学習時間1000時間程度)を経過した人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、中級後期から上級の学習者、並びに大学・大学院受験および日本語能力試験1級を目指す学習者を想定。

5. 1. 2. 8 『児童生徒に対する日本語教育のための 基本語彙調査』について

「外国人児童生徒が、日本の小中学校(特に、小学校)での教育を受けるにあたって、はじめに学習すべき日本語の基本的な語彙についての妥当な標準を得る」という目的のもと、1993年から1995年にかけて行われた調査の報告書。調査は6種類(うち4種類は子供対象)の資料を用い、収録されている語の共通度を見るという観点から行われた。6種類の資料から収録された語の総数は、6,001語である。また6種類の資料名と調査対象とした語、およびその語数は以下の通りである。

資料(1)『日本語教育のための基本語彙調査』: 基本語二千 2,030語

資料(2)『簡約日本語の創成と教材開発に関する研究』: [暫定]簡約日本語語彙表 2,000語

資料(3)『にほんごをまなぼう(1)』: 教師用指導書の「五十音順語彙インデックス」約920語

資料（４）『幼児のこくご絵じてん』：見出し語 1,350 語

資料（５）『はじめての国語じてん』：本文の見出し語と「ことばの広場」 約 2,300 語
+約 300 語

資料（６）『こどもことばえじてん』：五十音順に配列された見出し語 約 4,000 語

以上 8 点の文献における基本語彙の資料に、どのようなオノマトペが選定されているかは、次節で調査・報告する。

5. 2 基本語彙先行研究の文献に選定されたオノマトペ

ここで、本論文における基本オノマトペ選定の原案を作成する目的で、5. 1 節で挙げた日本語教育における基本語彙の8種の文献において、どのようなオノマトペが選定されているかを5. 2. 1 項で順次示す。そして、5. 2. 2 項で、8種の文献に選定されたオノマトペを50音順に一覧にしたものを【表1】で示す。また、オノマトペの各語を選定した文献数の多いものから順に並べたものを、【表2】で示す。

5. 2. 1 各文献に選定されたオノマトペ

5. 2. 1. 1 文献(1)『国立国語研究所報告78 日本語教育のための基本語彙調査』 に選定されたオノマトペ

<基本2千語>として以下の12語

うっかり	がっかり	きちんと	しっかり	すっきり
ちゃんと	どンドン	にこにこ	はっきり	びっくり
ぼんやり	ゆっくり			

<基本6千語>として以下の49語

あっさり	いらいら	うろうろ	がたがた	ぎっしり
きっぱり	ぎゅうぎゅう	ぎよっと	きらきら	くしゃくしゃ
ぐずぐず	くたくた	ぐっすり	ぐらぐら	ぐるっと
こっそり	さっさと	さっぱり	じっと	すっきり
すっと	すらすら	ずらり	ずるずる	そっくり
そっと	そろそろ	たっぷり	だぶだぶ	どきどき
どっと	のんびり	ばったり	はっと	ぱっと
ばらばら	びかびか	びたり	びったり	ふと
ふらふら	ぶらぶら	ぶるぶる	ふわふわ	ぺこぺこ
ぺらぺら	ほっと	まごまご	めちゃくちゃ	

5. 2. 1. 2 文献(2)『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集』に選
定されたオノマトペ

<第一水準>として以下の52語

あっさり	うっかり	うろうろ	がっかり	がちり
きちんと	ぎっしり	きっちり	ぎゅうぎゅう	ぐずぐず
ぐっすり	こつこつ	こっそり	さっさと	ざっと
さっぱり	しっかり	じっと	じめじめ	ずきずき
すっきり	すらすら	そっと	そろそろ	ちゃんと
どンドン	にこにこ	にっこり	ぬるぬる	ねばねば
のろのろ	のんびり	はっきり	ぱったり	はっと
はらはら	ばらばら	びっくり	びっしょり	びったり
ふと	ぶるぶる	ふわふわ	べたべた	へとへと
ぺらぺら	ほっと	ぼつぼつ	ぼんやり	めちゃめちゃ
ゆっくり	ゆったり			

<第二水準>として以下の18語

きっぱり	きょろきょろ	きらきら	ざあざあ	さっと
しとしと	じろじろ	すっきり	たっぷり	でこぼこ
どっと	ぱっと	ぴかぴか	ふらふら	ぽかぽか
まごまご	めきめき	めちゃくちゃ		

5. 2. 1. 3 文献(3)「日本語教育基本2,570語」に選定されたオノマトペ

以下の12語

がっかり	しっかり	じっと	そっと	そろそろ
ちゃんと	どンドン	はっきり	びっくり	びったり
ぼんやり	ゆっくり			

5. 2. 1. 4 文献(4)『日本語能力試験 出題基準【改訂版】』に選定されたオノマトペ

<4級>として以下の1語

ゆっくり

<3級>として以下の6語

しっかり すっかり そろそろ どんどん はっきり

びっくりする

<2級>として以下の40語

いらいら	うっかり	うろうろ	きちんと	ぎっしり
ぐっすり	こっそり	さっさと	ざっと	さっぱり
しいんと	じっと	すっきり	すっと	ずらり
せつせと	そうっと	そっくり	そっと	たっぷり
ちゃんと	でこぼこ	どきどき	どっと	にこにこ
にっこり	のろのろ	のんびり	はきはき	ぼったり
ぴかぴか	びたり	ぴったり	ぶつぶつ	ふと
ふわふわ	ぼんやり	まごまご	めちゃくちゃ	めっきり

<1級>として以下の28語

あっさり	うんざり	おどおど	がっくり	がっしり
がちり	きちっと	きっかり	きっちり	きっぱり
くっきり	ぐっと	げっそり	さっと	じっくり
ずらっと	ずるずる	すんなり	だぶだぶ	ちらっと
はらはら	びっしょり	ぶかぶか	ふらふら	ぶらぶら
ぺこぺこ	ほっと	ぼつぼつ		

5. 2. 1. 5 文献(5)「中級用語彙—基本 4000 語—」に選定されたオノマトペ

以下の 23 語

うっかり	がっかり	きちんと	こっそり	ごろごろ
さっと	ざっと	ざらざら	しっかり	じっと
すっきり	そっくり	そっと	そろそろ	たっぷり
ちゃんと	どンドン	はっきり	びっくり	ぶらぶら
ぼんやり	めちゃくちゃ	ゆっくり		

5. 2. 1. 6 文献(6)『外国人のための基本語用例辞典』に選定されたオノマトペ

5. 1. 6 に記した通り、巻末付録の「擬声語・擬態語」には、189 語のオノマトペが選定されているが、この 189 語の中には、本文で取り扱っている語が 78 語ある。また、本文の見出し語の中には、巻末付録に「擬声語・擬態語」として載せてはいないが、本論文でオノマトペと認定した語が、「がっかり」「じっと」「ずきずき」等 30 語ある。従って、巻末付録のうち本文の見出し語として載っている 78 語と、巻末付録にはないが本文中に見出し語となっている 30 語を併せた 108 語の擬声語・擬態語が、日本語学習の初級の段階において出あうことが多く、かつ必要度が高いと考えられる基本的な語として選定されていると言える。以下がその 108 語である。

あっさり	うっかり	かさかさ	かちかち	がっかり
がやがや	からから	がらがら	かんかん	きちんと
きっぱり	きらきら	きらり	ぎらぎら	ぐうぐう
くすくす	ぐずぐず	ぐっすり	ぐっと	くるくる
ぐるぐる	ぐんぐん	ごうごう	こっくり	こつこつ
こっそり	ころころ	ごろごろ	ころり	ごろり
ざくざく	さっさと	さっと	さっぱり	さらさら
しくしく	しっかり	じっと	じゃぶじゃぶ	しょんぼり
すいすい	ずきずき	すごすご	すっきり	すっと

すやすや	すらすら	するする	ずんずん	せっせと
そっくり	そっと	そよそよ	そろそろ	ぞろぞろ
ちゃんと	ちょこちょこ	ちよろちよろ	ちらちら	どしん
どっと	どやどや	とんとん	どんどん	にこにこ
にっこり	のっそり	のろのろ	ばちばち	はつきり
ばったり	はっと	ぱっと	はらはら	ばらばら
ばらばら	びいびい	ぴかぴか	びくびく	ぴちぴち
びっくり	ひっそり	ぴったり	びゅうびゅう	ひよいと
ふうふう	ぶくぶく	ぶつぶつ	ぶらぶら	ぶるぶる
ふわふわ	ふわり	ぶんぶん	ぷんぷん	ぽっかり
ほっと	ぼつぼつ	ぼんぼん	ぼんやり	まごまご
めちゃめちゃ	もぐもぐ	ゆっくり	ゆったり	ゆるゆる
よちよち	りんりん	わいわい		

5. 2. 1. 7 文献(7)『改訂 1万語語彙分類集』に選定されたオノマトペ⁶

<レベルD>として以下の1語

ゆっくり

<レベルC>として以下の15語

きらきら	ぎらぎら	ぐっすり	ぐらぐら	ざあざあ
そろそろ	どきどき	とんとん	どんどん	にこにこ
はつきり	ふらふら	ぶらぶら	ぺこぺこ	ぺらぺら

<レベルB>として以下の89語

あっさり	いらいら	うきうき	うろうろ	がくんと
------	------	------	------	------

⁶ ここには、本資料において「擬声・擬態語」として分類された語以外にも、「あっさり」「ゆっくり」等、筆者が第1章で述べた基準をもってオノマトペと認定した語も挙げている。

がさがさ	がたがた	かちかち	かっと	がぶがぶ
がやがや	からから	がらがら	かんかん	がんがん
きちっと	きちんと	ぎっしり	きっちり	ぎゅうぎゅう
きよろきよろ	きらりと	ぎりぎり	くしゃくしゃ	ぐずぐず
くたくた	くるくる	ぐるぐる	げらげら	ごくんと
こっそり	ごろごろ	さっと	さっぱり	ざらざら
しいっ	しいんと	しっかり	じっと	じめじめ
じゃぶじゃぶ	じろじろ	すっかり	すっきり	すっと
すべすべ	すやすや	すらすら	ずらり	せっせと
そっくり	たっぷり	だぶだぶ	ちゃんと	つるつる
でこぼこ	どきっと	どっと	にっこり	にやにや
ぬるぬる	のろのろ	のんびり	はっと	ぱっと
ばらばら	びかびか	びしょびしょ	びたりと	びっしょり
ぴったり	びよんと	びよんびよん	ひらひら	ひらりと
ぶつぶつ	ふと	ぶるぶる	ふわふわ	ぺこぺこ
べたべた	ぺらぺら	ぼかぼか	ほっと	ぼんやり
めちゃくちゃ	めちゃめちゃ	ゆったり	わくわく	

<レベルA>として以下の98語

うずうず	うっとり	うとうと	うんざり	おどおど
おろおろ	かさかさ	がたんと	がっくり	がっしり
がっちり	がぶりと	からりと	がらりと	がらんと
ぎざぎざ	きっかり	きっぱり	ぎよっと	くっきり
ぐっしょり	ぐったり	ぐっと	くどくど	くよくよ
くるり	ぐるり	げっそり	ごしごし	こそこそ
こちこち	こつこつ	ころころ	さっさと	ざっと
さらさら	ざわざわ	しくしく	じっくり	しとしと
しょんぼり	じろり	しんと	すいすい	ずきずき
ずるずる	すんなり	せかせか	ぞろぞろ	そわそわ
たらたら	だらだら	ちらっと	ちらちら	ちらりと

つやつや	てくてく	どしどし	どたどた	どたばた
どっさり	どっしり	とろとろ	どろどろ	にやりと
ねばねば	ばちばち	ぼったり	はらはら	びくびく
ひしひし	ひそひそ	びっしり	ひっそり	びりびり
ぴりぴり	ぴんぴん	ぶかぶか	ふわりと	ふんぶん
へとへと	ぼかんと	ぼたぼた	ぼっかり	ぼつぼつ
ぼつりぼつり	ぼやぼや	ぼろぼろ	まごまご	むかむか
むつつり	むっと	めきめき	めっきり	ゆらゆら
よちよち	よろよろ	わいわい		

5. 2. 1. 8 文献(8)『児童生徒に対する日本語教育のための 基本語彙調査』に選定されたオノマトペ⁷

<子供用資料2種以上に共通する語> 63語

いらいら	うきうき	うろうろ	がさがさ	がたがた
がちゃがちゃ	がっかり	がやがや	きちんと	ぎっしり
きよろきよろ	くすくす	ぐずぐず	ぐったり	ぐんぐん
さっぱり	ざぶざぶ	さらさら	ざわざわ	しくしく
しっかり	じっと	じゃぶじゃぶ	しょんぼり	じろじろ
そっくり	そっと	ぞっと	ぞろぞろ	そわそわ
ちゃんと	ちよろちよろ	ちらちら	てくてく	どきどき
とぼとぼ	どんどん	にこにこ	にっこり	のろのろ
のんびり	はっきり	はらはら	びくびく	びっくり
びったり	ぶつぶつ	ぶらぶら	ぶんぶん	ぺちやくちや
へとへと	ぼんやり	まごまご	みしみし	むしゃむしゃ
むっくり	めそめそ	もじもじ	もりもり	ゆっくり
よちよち	わいわい	わくわく		

⁷ ここでは、文献(8)が調査対象とした4種類の子供用資料のうち、2種類に共通する語を選定された語として挙げている。

5. 2. 2 8種の文献に選定されたオノマトペ一覧

以上、8種の基本語彙文献におけるオノマトペの選定状況を、初級、中級、上級別に50音順に示したのが【表1】である。それぞれの文献において選定されている語のレベルは、以下の通りと考えた。表中で、初級、中級、上級の各欄にある数字は、それぞれの語が各文献のうち何点に、当該レベルの語として選定されているかを表している。

- 初級：文献（1）における2千語、文献（2）における3千語、文献（3）の2,570語
文献（5）における4級語彙と3級語彙、文献（7）におけるレベルCの語彙
- 中級：文献（1）における6千語、文献（2）における4千語、文献（5）の4,000語
文献（5）における2級語彙、文献（6）の語、文献（7）におけるレベルBの語彙、文献（8）で選定された語彙
- 上級：文献（5）における1級語彙、文献（7）におけるレベルAの語彙

また、選定している文献数の多いものから順に並べ替えたものが【表2】である。なお、その語を選定した文献の総数が同数の場合は、初級レベルと中級レベルの文献での選定数の合計で多いものから順に並べてある。【表2】によって、基本語彙の先行研究においてどのオノマトペが多く選定されているか、またその中でも初級レベルと中級レベルにおいてより多く選定されているオノマトペが何であるかを知ることができる。

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(1)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
1	あっさり	5	1			○			3		○			○	○		1	○	
2	いらいら	4							4	○	○				○	○			
3	うきうき	2							2						○	○			
4	うずうず	1															1		○
5	うっかり	6	2		○	○			4	○			○	○	○				
6	うっとり	1															1		○
7	うとうと	1															1		○
8	うろろう	5	1			○			4	○	○				○	○			
9	うんざり	2															2	○	○
10	おどおど	2															2	○	○
11	おろおろ	1															1		○
12	がくんと	1							1						○				
13	かさかさ	2							1					○			1		○
14	がさがさ	2							2						○	○			
15	がたがた	3							3		○				○	○			
16	がたんと	1															1		○
17	かちかち	2							2					○	○				
18	がちゃがちゃ	1							1							○			
19	がっかり	6	3		○	○	○		3				○	○		○			
20	がっくり	2															2	○	○
21	がっしり	2															2	○	○
22	がっちり	3	1			○											2	○	○
23	かっと	1							1						○				
24	がぶがぶ	1							1						○				
25	がぶりと	1															1		○
26	がやがや	3							3					○	○	○			
27	からから	2							2					○	○				
28	がらがら	2							2					○	○				
29	からりと	1															1		○
30	がらりと	1															1		○
31	がらんと	1															1		○
32	かんかん	2							2					○	○				
33	がんがん	1							1						○				
34	ぎざぎざ	1															1		○
35	きちっと	2							1						○		1	○	
36	きちんと	7	2		○	○			5	○			○	○	○	○			

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(2)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
37	きっかり	2															2	○	○
38	ぎっしり	5	1			○			4	○	○				○	○			
39	きっちり	2	1			○									○		1	○	
40	きっぱり	5							3		○	○		○			2	○	○
41	ぎゅうぎゅう	3	1			○			2		○				○				
42	ぎよつと	2							1		○						1		○
43	きよろきよろ	3							3			○			○	○			
44	きらきら	4	1					○	3		○	○		○					
45	ぎらぎら	2	1					○	1					○					
46	きらりと	2							2					○	○				
47	ぎりぎり	1							1						○				
48	ぐうぐう	1							1					○					
49	くしゃくしゃ	2							2		○				○				
50	くすくす	2							2					○		○			
51	ぐずぐず	5	1			○			4		○			○	○	○			
52	くたくた	2							2		○				○				
53	くつきり	2															2	○	○
54	ぐっしょり	1															1		○
55	ぐっすり	5	2			○		○	3	○	○			○					
56	ぐったり	2							1							○	1		○
57	ぐっと	3							1					○			2	○	○
58	くどくど	1															1		○
59	くよくよ	1															1		○
60	ぐらぐら	2	1					○	1		○								
61	くるくる	2							2					○	○				
62	ぐるぐる	2							2					○	○				
63	ぐるっと	1							1		○								
64	くるり	1															1		○
65	ぐるり	1															1		○
66	ぐんぐん	2							2					○		○			
67	げっそり	2															2	○	○
68	げらげら	1							1						○				
69	ごうごう	1							1					○					
70	ごくんと	1							1						○				
71	ごしごし	1															1		○
72	こそこそ	1															1		○

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(3)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
73	こちこち	1															1		○
74	こっくり	1							1					○					
75	こつこつ	3	1			○			1					○			1		○
76	こっそり	6	1			○			5	○	○		○	○	○				
77	ころころ	2							1					○			1		○
78	ごろごろ	3							3				○	○	○				
79	ころり	1							1					○					
80	ごろり	1							1					○					
81	ざあざあ	2	1					○	1			○							
82	ざくざく	1							1					○					
83	さつさと	5	1			○			3	○	○			○			1		○
84	さつと	5							4			○	○	○	○		1	○	
85	ざつと	4	1			○			2	○			○				1		○
86	さっぱり	6	1			○			5	○	○			○	○	○			
87	ざぶざぶ	1							1							○			
88	さらさら	3							2					○		○	1		○
89	ざらざら	2							2				○		○				
90	ざわざわ	2							1							○	1		○
91	しいっ	1							1						○				
92	しいんと	2							2	○					○				
93	しくしく	3							2					○		○	1		○
94	しっかり	8	4	○	○	○	○		4				○	○	○	○			
95	じつくり	3							1					○			2	○	○
96	じつと	8	2			○	○		6	○	○		○	○	○	○			
97	しとしと	2							1			○					1		○
98	じめじめ	2	1			○			1						○				
99	じゃぶじゃぶ	3							3					○	○	○			
100	しょんぼり	3							2					○		○	1		○
101	じろじろ	3							3			○			○	○			
102	じろり	1															1		○
103	しんと	1															1		○
104	すいすい	2							1					○			1		○
105	ずきずき	3	1			○			1					○			1		○
106	すごすご	1							1					○					
107	すっかり	6	3	○	○	○			3				○	○	○				
108	すつきり	4							4	○	○	○			○				

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(4)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
109	ずっと	4							4	○	○			○	○				
110	すべすべ	1							1					○	○				
111	すやすや	2							2					○	○				
112	すらすら	4	1			○			3		○			○	○				
113	ずらっと	1															1	○	
114	ずらり	3							3	○	○				○				
115	するする	1							1					○					
116	ずるずる	3							1		○						2	○	○
117	ずんずん	1							1					○					
118	すんなり	2															2	○	○
119	せかせか	1															1		○
120	せつせと	4							4	○	○			○	○				
121	そうっと	1							1	○									
122	そっくり	7	1			○			6	○	○		○	○	○	○			
123	そっと	6	1				○		5	○	○		○	○		○			
124	ぞっと	1							1							○			
125	そよそよ	1							1					○					
126	そろそろ	7	4	○		○	○	○	3		○		○	○					
127	ぞろぞろ	3							2					○		○	1		○
128	そわそわ	2							1							○	1		○
129	たっぷり	5							5	○	○	○	○		○				
130	だぶだぶ	3							2		○				○		1	○	
131	たらたら	1															1		○
132	だらだら	1															1		○
133	ちゃんと	8	3		○	○	○		5	○			○	○	○	○			
134	ちょこちょこ	1							1					○					
135	ちよろちよろ	2							2					○		○			
136	ちらちら	3							2					○		○	1		○
137	ちらっと	2															2	○	○
138	ちらりと	1															1		○
139	つやつや	1															1		○
140	つるつる	1							1						○				
141	てくてく	2							1							○	1		○
142	でこぼこ	4							4	○	○	○			○				
143	どきっと	1							1						○				
144	どきどき	4	1					○	3	○	○					○			

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(5)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
145	どしどし	1															1		○
146	どしん	1							1					○					
147	どたどた	1															1		○
148	どたばた	1															1		○
149	どっさり	1															1		○
150	どっしり	1															1		○
151	どっと	5							5	○	○	○		○	○				
152	とほとほ	1							1							○			
153	どやどや	1							1					○					
154	とろとろ	1															1		○
155	どろどろ	1															1		○
156	とんとん	2	1					○	1					○					
157	どんどん	8	5	○	○	○	○	○	3				○	○		○			
158	にこにこ	6	3		○	○	○	○	3	○				○		○			
159	にっこり	5	1			○			4	○				○	○	○			
160	にやにや	1							1						○				
161	にやりと	1															1		○
162	ぬるぬる	2	1			○			1						○				
163	ねばねば	2	1			○											1		○
164	のっそり	1							1					○					
165	のろのろ	4	1			○			3	○					○	○			
166	のんびり	5	1			○			4	○	○				○	○			
167	はきはき	1							1	○									
168	ばちばち	2							1					○			1		○
169	はつきり	8	5	○	○	○	○	○	3				○	○		○			
170	ぱったり	5	1			○			3	○	○			○			1		○
171	はっと	4	1			○			3		○			○	○				
172	ぱっと	4							4		○	○		○	○				
173	はらはら	5	1			○			2					○		○	2	○	○
174	ばらばら	4	1			○			3		○			○	○				
175	びいびい	1							1					○					
176	びかびか	5							5	○	○	○		○	○				
177	びくびく	2							1							○	1		○
178	びくびく	1							1					○					
179	ひしひし	1															1		○
180	びしょびしょ	1							1						○				

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(6)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
181	ひそひそ	1															1		○
182	びたりと	3							3	○	○				○				
183	びちびち	1							1					○					
184	びっくり	7	4	○	○	○	○		3				○	○		○			
185	びっしょり	3	1			○			1						○			1	○
186	びっしり	1															1		○
187	びっそり	2							1					○			1		○
188	びったり	7	2			○	○		5	○	○			○	○	○			
189	びゅうびゅう	1							1					○					
190	ひよいと	1							1					○					
191	びよんと	1							1						○				
192	びよんびよん	1							1						○				
193	ひらひら	1							1						○				
194	ひらりと	1							1						○				
195	びりびり	1															1		○
196	びりびり	1															1		○
197	びんびん	1															1		○
198	ふうふう	1							1					○					
199	ぶかぶか	2															2	○	○
200	ぶくぶく	1							1					○					
201	ぶつぶつ	4							4	○				○	○	○			
202	ふと	4	1			○			3	○	○				○				
203	ふらふら	4	1					○	2		○	○					1	○	
204	ぶらぶら	6	1					○	4		○	○	○	○		○	1	○	
205	ぶるぶる	4	1			○			3		○			○	○				
206	ふわふわ	5	1			○			4	○	○			○	○				
207	ふわりと	2							1					○			1		○
208	ぶんぶん	3							2					○		○	1		○
209	ぺこぺこ	4	1					○	2		○				○		1	○	
210	べたべた	2	1			○			1						○				
211	ぺちやくちや	1							1							○			
212	へとへと	3	1			○			1							○	1		○
213	べらべら	4	2			○		○	2		○				○				
214	ぽかぽか	2							2			○			○				
215	ぽかんと	1															1		○
216	ぼたぼた	1															1		○

【表1】 「基本語彙先行研究文献に選定されたオノマトペ 50音順」(7)

	語	総数	初級	能試3級	国研2千	文化庁3千	玉村2,570	レベルC	中級	能試2級	国研6千	文化庁5千	玉村4,000	基本語用例	レベルB	児童生徒	上級	能試1級	レベルA
217	ぽっかり	2							1					○			1		○
218	ぽっと	5	1			○			3		○			○	○		1	○	
219	ぽつぽつ	3	1			○											2	○	○
220	ぽつぽつ	1							1					○					
221	ぽつりぽつり	1															1		○
222	ぼやぼや	1															1		○
223	ぼろぼろ	1															1		○
224	ぼんぼん	1							1					○					
225	ぼんやり	8	3		○	○	○		5	○			○	○	○	○			
226	まごまご	6							5	○	○	○		○		○	1		○
227	みしみし	1							1							○			
228	むかむか	1															1		○
229	むしゃむしゃ	1							1							○			
230	むっくり	1							1							○			
231	むつつり	1															1		○
232	むっと	1															1		○
233	めきめき	2							1			○					1		○
234	めそめそ	1							1							○			
235	めちやくちや	5							5	○	○	○	○		○				
236	めちやめちや	3	1			○			2					○	○				
237	めつきり	2							1	○							1		○
238	もぐもぐ	1							1					○					
239	もじもじ	1							1							○			
240	もりもり	1							1							○			
241	ゆっくり	8	5	○	○	○	○	○	3				○	○		○			
242	ゆったり	3	1			○			2					○	○				
243	ゆらゆら	1															1		○
244	ゆるゆる	1							1					○					
245	よちよち	3							2					○		○	1		○
246	よろよろ	1															1		○
247	りんりん	1							1					○					
248	わいわい	3							2					○		○	1		○
249	わくわく	2							2						○	○			

【表2】「基本語彙先行研究の文献に選定されたオノマトペ 頻度順」(1)

	語	総数	初+中	初級	中級	上級
1	はっきり	8	8	5	3	
2	どンドン	8	8	5	3	
3	ゆっくり	8	8	5	3	
4	しっかり	8	8	4	4	
5	ちゃんと	8	8	3	5	
6	ぼんやり	8	8	3	5	
7	じっと	8	8	2	6	
8	そろそろ	7	7	4	3	
9	びっくり	7	7	4	3	
10	ぴったり	7	7	2	5	
11	きちんと	7	7	2	5	
12	そっくり	7	7	1	6	
13	すっきり	6	6	3	3	
14	がっかり	6	6	3	3	
15	にこにこ	6	6	3	3	
16	うっかり	6	6	2	4	
17	こっそり	6	6	1	5	
18	さっぱり	6	6	1	5	
19	そっと	6	6	1	5	
20	ぶらぶら	6	5	1	4	1
21	まごまご	6	5		5	1
22	ぐっすり	5	5	2	3	
23	うろうろ	5	5	1	4	
24	ぎっしり	5	5	1	4	
25	ぐずぐず	5	5	1	4	
26	にっこり	5	5	1	4	
27	のんびり	5	5	1	4	
28	ふわふわ	5	5	1	4	
29	たっぷり	5	5		5	
30	どっと	5	5		5	
31	ぴかぴか	5	5		5	
32	めちやくちや	5	5		5	
33	あっさり	5	4	1	3	1
34	さっさと	5	4	1	3	1
35	ぱったり	5	4	1	3	1
36	ほっと	5	4	1	3	1
37	さっと	5	4		4	1
38	はらはら	5	3	1	2	2
39	きっぱり	5	3		3	2
40	ぺらぺら	4	4	2	2	
41	きらきら	4	4	1	3	
42	すらすら	4	4	1	3	
43	ときどき	4	4	1	3	
44	のろのろ	4	4	1	3	
45	はっと	4	4	1	3	
46	ばらばら	4	4	1	3	
47	ふと	4	4	1	3	
48	ぶるぶる	4	4	1	3	
49	いらいら	4	4		4	
50	すっきり	4	4		4	
51	すっと	4	4		4	
52	せっせと	4	4		4	
53	でこぼこ	4	4		4	
54	ぱっと	4	4		4	
55	ぶつぶつ	4	4		4	

【表2】「基本語彙先行研究の文献に選定されたオノマトペ 頻度順」(2)

	語	総数	初+中	初級	中級	上級
56	ざっと	4	3	1	2	1
57	ふらふら	4	3	1	2	1
58	ぺこぺこ	4	3	1	2	1
59	ぎゅうぎゅう	3	3	1	2	
60	めちやめちや	3	3	1	2	
61	ゆったり	3	3	1	2	
62	がたがた	3	3		3	
63	がやがや	3	3		3	
64	きよろきよろ	3	3		3	
65	ごろごろ	3	3		3	
66	じゃぶじゃぶ	3	3		3	
67	じろじろ	3	3		3	
68	ずらり	3	3		3	
69	びたりと	3	3		3	
70	ずきずき	3	2	1	1	1
71	びっしょり	3	2	1	1	1
72	へとへと	3	2	1	1	1
73	こつこつ	3	2	1	1	1
74	さらさら	3	2		2	1
75	しょんぼり	3	2		2	1
76	ぞろぞろ	3	2		2	1
77	だぶだぶ	3	2		2	1
78	ちらちら	3	2		2	1
79	ぶんぶん	3	2		2	1
80	よちよち	3	2		2	1
81	わいわい	3	2		2	1
82	しくしく	3	2		2	1
83	がちり	3	1	1		2
84	ぼつぼつ	3	1	1		2
85	ぐっと	3	1		1	2
86	じっくり	3	1		1	2
87	ずるずる	3	1		1	2
88	ぎらぎら	2	2	1	1	
89	ざあざあ	2	2	1	1	
90	じめじめ	2	2	1	1	
91	とんとん	2	2	1	1	
92	ぬるぬる	2	2	1	1	
93	べたべた	2	2	1	1	
94	ぐらぐら	2	2	1	1	
95	うきうき	2	2		2	
96	がさがさ	2	2		2	
97	かちかち	2	2		2	
98	からから	2	2		2	
99	がらがら	2	2		2	
100	かんかん	2	2		2	
101	きらりと	2	2		2	
102	くしゃくしゃ	2	2		2	
103	くすくす	2	2		2	
104	くたくた	2	2		2	
105	くるくる	2	2		2	
106	ぐるぐる	2	2		2	
107	ぐんぐん	2	2		2	
108	ざらざら	2	2		2	
109	しいんと	2	2		2	
110	すやすや	2	2		2	

【表2】「基本語彙先行研究の文献に選定されたオノマトペ 頻度順」(3)

	語	総数	初+中	初級	中級	上級
111	ちよろちよろ	2	2		2	
112	ぼかぼか	2	2		2	
113	わくわく	2	2		2	
114	きっちり	2	1	1		1
115	ねばねば	2	1	1		1
116	かさかさ	2	1		1	1
117	きちっと	2	1		1	1
118	ぎよっと	2	1		1	1
119	ぐったり	2	1		1	1
120	ころころ	2	1		1	1
121	ざわざわ	2	1		1	1
122	しとしと	2	1		1	1
123	すいすい	2	1		1	1
124	そわそわ	2	1		1	1
125	てくてく	2	1		1	1
126	ぱちぱち	2	1		1	1
127	びくびく	2	1		1	1
128	ひっそり	2	1		1	1
129	ふわりと	2	1		1	1
130	ぽっかり	2	1		1	1
131	めきめき	2	1		1	1
132	めっきり	2	1		1	1
133	うんざり	2	0			2
134	おどおど	2	0			2
135	がっくり	2	0			2
136	がっしり	2	0			2
137	きっかり	2	0			2
138	くつきり	2	0			2
139	げっそり	2	0			2
140	すんなり	2	0			2
141	ちらっと	2	0			2
142	ぶかぶか	2	0			2
143	がくんと	1	1		1	
144	がちゃがちゃ	1	1		1	
145	かっと	1	1		1	
146	がぶがぶ	1	1		1	
147	がんがん	1	1		1	
148	ぎりぎり	1	1		1	
149	ぐうぐう	1	1		1	
150	ぐるっと	1	1		1	
151	げらげら	1	1		1	
152	ごうごう	1	1		1	
153	ごくと	1	1		1	
154	こっくり	1	1		1	
155	ころり	1	1		1	
156	ごろり	1	1		1	
157	ざくざく	1	1		1	
158	ざぶざぶ	1	1		1	
159	しいっ	1	1		1	
160	すごすご	1	1		1	
161	すべすべ	1	1		1	
162	するする	1	1		1	
163	ずんずん	1	1		1	
164	そうっと	1	1		1	
165	ぞっと	1	1		1	

【表2】「基本語彙先行研究の文献に選定されたオノマトペ 頻度順」(4)

	語	総数	初+中	初級	中級	上級
166	そよそよ	1	1		1	
167	ちよちよこ	1	1		1	
168	つるつる	1	1		1	
169	どきっと	1	1		1	
170	どしん	1	1		1	
171	とぼとぼ	1	1		1	
172	どやどや	1	1		1	
173	にやにや	1	1		1	
174	のっそり	1	1		1	
175	はきはき	1	1		1	
176	びいびい	1	1		1	
177	びくびく	1	1		1	
178	びしょびしょ	1	1		1	
179	びちびち	1	1		1	
180	びゅうびゅう	1	1		1	
181	ひよいと	1	1		1	
182	びよんと	1	1		1	
183	びよんびよん	1	1		1	
184	ひらひら	1	1		1	
185	ひらりと	1	1		1	
186	ぶうぶう	1	1		1	
187	ぶくぶく	1	1		1	
188	べちゃくちや	1	1		1	
189	ぽつぽつ	1	1		1	
190	ぽんぽん	1	1		1	
191	みしみし	1	1		1	
192	むしゃむしゃ	1	1		1	
193	むっくり	1	1		1	
194	めそめそ	1	1		1	
195	もぐもぐ	1	1		1	
196	もじもじ	1	1		1	
197	もりもり	1	1		1	
198	ゆるゆる	1	1		1	
199	りんりん	1	1		1	
200	うずうず	1	0			1
201	うっとり	1	0			1
202	うとうと	1	0			1
203	おろおろ	1	0			1
204	がたんと	1	0			1
205	がぶりと	1	0			1
206	からりと	1	0			1
207	がらりと	1	0			1
208	がらんと	1	0			1
209	ぎざぎざ	1	0			1
210	ぐっしょり	1	0			1
211	くどくど	1	0			1
212	くよくよ	1	0			1
213	くるり	1	0			1
214	ぐるり	1	0			1
215	ごしごし	1	0			1
216	こそこそ	1	0			1
217	こちこち	1	0			1
218	じろり	1	0			1
219	しんと	1	0			1
220	ずらっと	1	0			1

【表2】「基本語彙先行研究の文献に選定されたオノマトペ 頻度順」(5)

	語	総数	初+中	初級	中級	上級
221	せかせか	1	0			1
222	たらたら	1	0			1
223	だらだら	1	0			1
224	ちらりと	1	0			1
225	つやつや	1	0			1
226	どしどし	1	0			1
227	どたどた	1	0			1
228	どたばた	1	0			1
229	どっさり	1	0			1
230	どっしり	1	0			1
231	とろとろ	1	0			1
232	どろどろ	1	0			1
233	にやりと	1	0			1
234	ひしひし	1	0			1
235	ひそひそ	1	0			1
236	びっしり	1	0			1
237	びりびり	1	0			1
238	びりびり	1	0			1
239	びんびん	1	0			1
240	ぽかんと	1	0			1
241	ぽたぽた	1	0			1
242	ぽつりぽつり	1	0			1
243	ぽやぽや	1	0			1
244	ぼろぼろ	1	0			1
245	むかむか	1	0			1
246	むっつり	1	0			1
247	むっと	1	0			1
248	ゆらゆら	1	0			1
249	よろよろ	1	0			1

5. 3 日本語教育のための「基本オノマトペ」の選定

5. 1節と5. 2節で、日本語教育における基本語彙に関する先行研究、またそれらに選定されたオノマトペについて見てきたわけだが、5. 3節では、本論文における「基本オノマトペ」を選定するにあたって、どのような観点からの考察が必要なのかということをも5. 3. 1項で述べ、5. 3. 2項で、「基本オノマトペ」を選定する際の基準とそのプロセスを示す。そして、5. 3. 3項で、本論文における日本語教育のための「基本オノマトペ」を試案として提示する。

5. 3. 1 「基本オノマトペ」選定の考え方

日本語教育において、基本的なオノマトペを指導する目的で選定するにあたっては、音声や形態の面のみならず、文中でどう用いられるのかという統語論の観点、どのような文脈で用いられるのかという観点からも十分な考察と整理が必要である。その上で、初級後期から中級において学習・指導することが可能であると思われる語、すなわち意味や用法の習得が比較的容易なものというのが一つの基準となるであろう。また、汎用性のあるもの、つまり日常の言語生活において使用頻度が高く、学習者が教科書や教材、各種印刷媒体、メディア等において遭遇する可能性が高いオノマトペ、またそのオノマトペを習得して実際に使う機会がより多くあるもの、ということも同時に大切な基準となるはずである。以上はオノマトペの質的観点からの考察である。

次に、日本語の語彙全体におけるオノマトペの語数の問題、すなわち量的観点からの検討も必要となる。佐藤（2002）は、日本語がどれほどの語を有しているのか、さらには日本人が実際に使用している一般語は何語であろうかという点について、以下のように論じている。まず、『日本国語大辞典 第二版』は約50万語を収めているとされるが、これはかなりの固有名詞や古語・方言なども含んだ数である。中型国語辞典では、20万語から20万語と『日本国語大辞典』の半数以下となるが、なお、一般語以外の語・事項をかなり含んでいる。そこで、一般語以外の語・事項を省いている小型国語辞典では、約5万語から8万語までとなっており、これが日本人が使用する語の全貌を示しているとみてよいとしている。

さて、では日本人が通常使用していると思われる総語彙数のうち、オノマトペと考えら

れるものはいったいどれくらいの割合を占めるのであろうか。玉村（1989）の調査によれば、『分類語彙表』の収録語数 32,600 語のうち、オノマトペは、全語数の 2.43%にあたる 791 語である⁸。また、5.1 節と 5.2 節で調査した 8 種の基本語彙文献におけるオノマトペの採録語数および全体の語彙数に対する割合は、それぞれ以下の通りである。⁹

文献（1）6,000 語のうち 61 語・・・1.01%

文献（2）5,167 語のうち 70 語・・・1.35%

文献（3）2,570 語のうち 12 語・・・0.46%

文献（4）7,800 語のうち 70 語・・・0.89%

（2 級までの 4,833 語のうち 47 語・・・0.97%）

文献（5）4,000 語のうち 23 語・・・0.57%

文献（6）4,500 語のうち 108 語・・・2.4%

文献（7）10,172 語のうち 203 語・・・1.99%

（レベル B までの 6,310 語のうち 105 語・・・1.66%）

文献（8）5,500 語のうち 63 語・・・1.15%

このように、上記 8 種の文献におけるオノマトペの選定の割合は、文献によって大きく異なるが、各文献の中級レベルまでの選定率は平均して 1.28%であり、『分類語彙表』における採録率 2.43%の約半分である。これは、教育の場面、特に初級から中級前期までの段階では、どうしても基礎語としての名詞や動詞、形容詞等の学習・指導が先行すると考えられるからである。しかし、本論文が目指すところの「日本語教育のためのリソースとしての教材」という考え方に沿うなら、一般の言語使用の実際により近づけた形で提供することが望ましいのではないかと考える。よって本論文では、中級レベルまでに提示することが可能であると思われる基本オノマトペの数を、中級段階までの学習目標語 4,000 語の 1.5%から 2%、すなわち 60~80 語程度を目安とし、次節以降で語の選定を行うこととする。¹⁰

⁸ これは旧版の『分類語彙表』による調査であるため、『分類語彙表増補改訂版』（2004）におけるオノマトペの全収録語数に対する割合はこれとは異なることも考えられる。

⁹ この数字は、採用語数を全体の語数で割り、小数点以下第 5 位を四捨五入して出したものである。但し文献（8）では、4 種類の子供用資料それぞれの全体語数が異なるため、4 種類の中で総収録語数の最も多い資料（6）の 5,500 語を全体の語数とした。

¹⁰ 中級レベルまでの語彙数をいくつと考えるかは、文献によっても異なるが、ここでは、玉村（2003）の「中級用語彙－基本 4,000 語－」を基準とした。

5. 3. 2 「基本オノマトペ」の原案と選定へのプロセス

始めに、5. 2節で調査した基本語彙先行研究の8種の文献のうち、3種以上の文献に選定されている以下の87語を「基本オノマトペ」の原案とする。

<基本オノマトペ原案> 87語 (50音順)

あっさり	いらいら	うっかり	うろうろ	がたがた	がっかり
がちり	がやがや	きちんと	ぎっしり	きっぱり	ぎゅうぎゅう
きよろきよろ	きらきら	ぐずぐず	ぐっすり	ぐっと	こつこつ
こっそり	ごろごろ	さっさと	さっと	ざっと	さっぱり
さらさら	しくしく	しっかり	じっくり	じっと	じゃぶじゃぶ
しょんぼり	じろじろ	ずきずき	すっきり	すっきり	すっと
すらすら	ずらり	ずるずる	せっせと	そっくり	そっと
そろそろ	ぞろぞろ	たっぷり	だぶだぶ	ちゃんと	ちらちら
でこぼこ	どきどき	どっと	どンドン	にこにこ	にっこり
のろのろ	のんびり	はっきり	ぼったり	はっと	ぱっと
はらはら	ばらばら	ぴかぴか	ぴたりと	びっくり	ぴったり
びっしょり	ぶつぶつ	ふと	ふらふら	ぶらぶら	ぶるぶる
ふわふわ	ぶんぶん	ぺこぺこ	へとへと	ぺらぺら	ほっと
ぼつぼつ	ぼんやり	まごまご	めちゃくちゃ	めちゃめちゃ	ゆっくり
ゆったり	よちよち	わいわい			

ここで、この「基本オノマトペ」の原案が、初級後半から中級段階の指導・学習にとって真に基本的かつ必要な語であるかを検討するため、以下のように選定のための4つの基準を設ける。そして、この基準に従って語の削除、追加を行い、「基本オノマトペ」の再選定を行う。

- (1) 意味や用法の理解が難しい語、共起する語や使用する場面と相手、使用する機会が限られている語、他の語句や表現で言い換えることで同様の表現意図が表出できると考えられる語等、初級後半から中級の学習者にとって必須ではないと判断される

語を原案から削除する。また一般の言語資料における出現頻度が低く、学習者が遭遇する可能性が低いと思われる語も同様に削除する。

- (2) 基本語彙先行研究において2種以上の文献に選定されている語、または初級から中級の教科書・教材の複数に出てくる語のうち、基本的な動詞・形容詞・名詞と共起する語、また比較的やさしい文型・文脈の中において用いられると思われる語を追加する。
- (3) 第3章において調査した各種言語資料において出現頻度が高く、学習者が中級後半から上級の学習、また日常の言語生活において遭遇する可能性が高いと思われる語のうち、基本的な動詞・形容詞・名詞と共起する語、また比較的やさしい文型・文脈の中において用いられると思われる語を追加する。
- (4) 音韻形態がよく似た語やほぼ同様の意味を表す語が二つ以上ある場合、どちらか一つを知っていれば他の語は知らなくても表現者の意図を表出することが可能である、あるいは一つの語から他の語の意味や用法を類推することができると思われる場合、どちらか一方を選択する。その際、基本語彙先行研究の文献において、より低いレベルで選定されている語のほうを「基本的」と考え、選択する。

まず、基準(1)に該当するものとして、以下の23語を削除する。

がちり	きっぱり	ぎゅうぎゅう	きよろきよろ	ぐずぐず
こつこつ	しくしく	じゃぶじゃぶ	しょんぼり	ずきずき
ずるずる	せつせと	だぶだぶ	ちらちら	でこぼこ
びっしょり	ぶつぶつ	ふんぶん	へとへと	ぼつぼつ
まごまご	よちよち	わいわい		

次に、基準(2)に該当するものとして、以下の6語を追加する。

からから　くるくる　ぐるぐる　げらげら　ざあざあ　わくわく

続けて、基準(3)に該当するものとして、以下の4語を追加する。

うんざり　　がんがん　　ぎりぎり　　ばたばた

最後に、基準(4)により、もう一方の語を選択するため削除するのは以下の4語である。

にっこり　（「にこにこ」を選択するため）

びたりと　（「びったり」を選択するため）

めちやめちや　（「めちやくちや」を選択するため）

ゆったり　（「ゆっくり」を選択するため）

5. 3. 3　日本語教育のための「基本オノマトペ」

5. 3. 2で示した選定基準による選定のプロセスを経た結果、日本語教育のための「基本オノマトペ」として、以下の70語を試案として提示する。

あっさり	いらいら	うっかり	うろうろ	うんざり
がたがた	がっかり	がやがや	からから	がんがん
きちんと	ぎっしり	きらきら	ぎりぎり	ぐっすり
ぐっと	くるくる	ぐるぐる	げらげら	こっそり
ごろごろ	ざあざあ	さっさと	さっと	ざっと
さっぱり	さらさら	しっかり	じっくり	じっと
じろじろ	すっきり	すっきり	すっと	すらすら
ずらり	そっくり	そっと	そろそろ	ぞろぞろ
たっぷり	ちゃんと	どきどき	どっと	どんどん
にこにこ	のろのろ	のんびり	ばたばた	はっきり
ぼったり	はっと	ぱっと	はらはら	ばらばら
ぴかぴか	びっくり	びったり	ふと	ふらふら
ぶらぶら	ぶるぶる	ふわふわ	ぺこぺこ	ぺらぺら
ほっと	ぼんやり	めちやくちや	ゆっくり	わくわく

この70語は、あくまで、日本語教育におけるオノマトペの学習と指導のために、第6章

で提示するリソース型教材を作成する目的で選定した試案である。従って、中級レベルまでにこの 70 語すべてを学習・指導することを前提としたものではない。また、オノマトペに限ったことではないが、学習・指導する語彙のシラバスや語彙の習得状況は、個々の学習者の学習目的や学習期間、学習環境によって大きく異なると考えられる。従って、この 70 語以外のオノマトペを学習・指導する機会がある、またはその必要に迫られるという学習者がいることは十分考えられるし、それを妨げるものではもちろんないことを断っておく。

続く第 6 章において、この 70 語を日本語学習者と教師のためにリソース化し、提示する。